

第1講

字が上手な人はいいよねー書道はいかにして日本に定着したのかー (2020年度第1問)

次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) 『千字文』は6世紀前半に、初学の教科書として、書聖と称された王羲之^{おうぎし}の筆跡を集め、千字の漢字を四字句に綴ったものと言われる。習字の手本としても利用され、『古事記』によれば、百済から『論語』とともに倭国に伝えられたという。
- (2) 唐の皇帝太宗は、王羲之の書を好み、模本(複製)をたくさん作らせた。遣唐使はそれらを下賜され、持ち帰ったと推測される。
- (3) 大宝令では、中央に大学、地方に国学が置かれ、『論語』が共通の教科書とされていた。大学寮には書博士が置かれ、書学生もいた。長屋王家にも「書法模人」という書の手本を模写する人が存在したらしい。天平年間には国家事業としての写経所が設立され、多くの写経生が仏典の書写に従事していた。
- (4) 律令国家は6年に1回、戸籍を国府で3通作成した。また地方から貢納される調は、郡家で郡司らが計帳などと照合し、貢進者・品名・量などを墨書した木簡がくくり付けられて、都に送られた。
- (5) 756年に聖武天皇の遺愛の品を東大寺大仏に奉献した宝物目録には、王羲之の真筆や手本があったと記されている。光明皇后が王羲之の書を模写したという「楽毅論」も正倉院に伝来している。平安時代の初めに留学した空海・橘逸勢も唐代の書を通して王羲之の書法を学んだという。

設問

- A 中央の都城や地方の官衙から出土する8世紀の木簡には、『千字文』や『論語』の文章の一部が多くみられる。その理由を2行(60字)以内で述べなさい。
- B 中国大陸から毛筆による書が日本列島に伝えられ、定着していく。その過程において、唐を中心とした東アジアの中で、律令国家や天皇家が果たした役割を4行(120字)以内で述べなさい。

解いてみましょう (第1講) Aについて

1 問われている (求められている) ことを確認する。

ア (7) 世紀の (1) に (ウ) の一部が
書かれている理由を書く。

イ そのような (1) は, (I) から出土する
ことを踏まえて書く。

ウ 2行 (60字) 以内で書く。



(I) から出土する (7) 世紀の (1)

に (ウ) の一部が書かれている理由を書く。

2行 (60字) 以内で書く。

- 2 資料と教科書（山川出版社『詳説日本史B』）の内容とを照らし合わせる。
関係する教科書のページと内容は、

教科書の



--

教科書の



--

教科書の



--

- 3 与えられた資料と教科書の記述をもとに作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。

(へ、抜き出して入れる)

【教科書の記述】

律令国家では、民衆は戸主を代表者とする戸に所属する形で戸籍・計帳に登録され、50戸で1里が構成されるように里が編成された。この戸を単位として口分田が班給され、租税が課せられた。(PP. 43. L1～4)

(4) 律令国家は6年に1回、戸籍を国府で3通作成した。また地方から貢納される調は、郡家で郡司が計帳などと照合し、貢進者・品名・量などを墨書した木簡がくくり付けられて、都に送られた。

【教科書の記述】

任期のある国司と違って伝統的な地方豪族が終身制で任命された郡司により、実際の民衆支配が展開したと思われる。郡家の遺跡からも木簡・墨書土器などの文字資料が出土し、律令制の文書主義にもとづき漢字文化が地方にも展開した様子が知られる。(PP. 48. L1～4)

(3) 大宝令では、中央に大学、地方に国学が置かれ、『論語』が共通の教科書とされていた。大学寮には書博士が置かれ、書学生もいた。長屋王家にも「書法模人」という書の手本を模写する人が存在したらしい。天平年間には国家事業としての写経所が設立され、多くの写経生が仏典の書写に従事していた。

(1) 『千字文』は6世紀前半に、初学の教科書として、書聖と称された王羲之(おうぎし)の筆跡を集め、千字の漢字を四字句に綴ったものと言われる。習字の手本としても利用され、『古事記』によれば、百濟から『論語』とともに倭国に伝えられたという。

① 国家では、② は ③

や ④ に登録され、これらをもとに

⑤ が課せられた。

実際の ⑥ は、地方豪族が終身制で

任命された ⑦ によって展開されたこと

が、郡家の遺跡から出土した木簡などに記された文字資料からわかる。

① 制は、貢納する税の貢進者・品名・量な

どを墨書した木簡がくくり付けるなど ⑧

であった。

これらのことから ① 制の ⑧

にもとづき、⑨ 文化が地方にも広まっていた

ことがわかる。

教育機関としては、⑩ 養成のために中央

に大学、地方に国学がおかれた。国学では ⑦

の子弟が学び、教科書として ⑪ や

⑫ が使われた。⑫ は習字の

⑬ としても利用された。

【教科書の記述】

教育機関としては、官吏養成のために中央に大学、地方に国学がおかれた。入学者は、大学の場合は貴族の子弟や朝廷に文筆で仕えてきた人びとの子弟、国学の場合は郡司の子弟らを優先した。(P. 56. L5～10)

抜き出したものをまとめる

※ ⑭には「決めぜりふ」を考えて入れる。

①制では、③・④をもとに⑥を行い、
⑤を課した。また、貢納する税の貢進者・品名・量などを墨書した木簡がくくり付
けるなど①制は、⑧であったため⑩は
⑨に⑭する（⑨を⑭する）必要があっ
た。そのため⑦などの⑩を養成するための教育機関として設け
られた大学や国学では⑪や⑫が教科書とされ、⑫
は習字の⑬にもなった。



4 60字に要約する。

解いてみましょう（第1講）Bについて

1 問われている（求められている）ことを確認する。

ア (ア) が (イ) していく (ウ)
において、(エ) や (オ) が (カ)
ついて書く。

イ (キ) を中心とした (ク) の視点で書く。

ウ 4行（120字）以内で書く。

2 資料と教科書の内容とを照らし合わせる。

関係する教科書のページと内容は、

教科書の



教科書の



書

3 与えられた資料と教科書の記述から抜き出して作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。上記の「関係する教科書のページと内容」からの抜粋も記されています。

東大チャート「毛筆による書が日本に定着した理由」(2020年度第1問設問B)

(へは、ほぼ抜き出して入れる。へは、考えて「決めぜりふ」を入れる。)

ア 毛筆による書が日本に定着していく過程において、律令国家や天皇家が果たした役割について書く。

イ 唐を中心とした東アジアの視点で書く。

(2) 唐の皇帝太宗は、王羲之の書を好み、模本(複製)をたくさん作らせた。遣唐使はそれらを下賜され、持ち帰ったと推測される。

【教科書の記述】

遣唐使たちは、唐から先進的な政治制度や国際的な文化をもたらし、日本に大きな影響を与えた。(P. 44. L21~23)

(5) 756年に聖武天皇の遺愛の品を東大寺大仏に奉獻した宝物目録には、王羲之の真筆や手本があったと記されている。光明皇后が王羲之の書を模写したという「楽毅論」も正倉院に伝来している。平安時代の初めに留学した空海・橘逸勢も唐代の書を通して王羲之の書法を学んだという。

【教科書の記述】

教育機関としては、官吏養成のために中央に大学、地方に国学がおかれた。(P. 56. L5~7)

(3) 大宝令では、中央に大学、地方に国学が置かれ、『論語』が共通の教科書とされていた。大学寮には書博士が置かれ、書学生もいた。長屋王家にも「書法模人」という書の手本を模写する人が存在したらしい。天平年間には国家事業としての写経所が設立され、多くの写経生が仏典の書写に従事していた。

【教科書の記述】

書道では、唐風の書が広まり、嵯峨天皇・空海・橘逸勢らの能書家が出て、のちに三筆と称せられた。

(P. 67. L6~7)

① の ② が ③ なんだ

④ が ⑤ され、

⑥ によって日本にもたらされた。

① は、政治制度や国際的な ⑦

において ⑧ の ⑨ であつた。

そのため、聖武天皇の遺愛の品に王羲之の真筆や手本があったり、長屋王や光明皇后が書の手本を ⑩ させたりしたように、天皇家は

④ を

⑪ 。

また、律令国家は ⑫ 寮に書博士や書学生がいたように、正式な ⑬ 内容と位置付けられるとともに、国家事業として

⑭ の ⑮ を行った。

その結果、② 風の書が広まり、嵯峨天皇・空海・橘逸勢らの能筆家が ⑯ と

称せられるようになるなど、天皇家や律令国家は

④ の日本への ⑰

を ⑱ 。

抜き出したものをまとめる

① の ② が ③ んだ ④ が
⑤ され、⑥ によって日本にもたらされた。① は、政
治制度や国際的な ⑦ において ⑧ の ⑨ であっ
たため、天皇家もこれを ③ んで、書の手本の ⑩ をさせるなど
⑪ 。また、律令国家は ④ を
⑫ の正式な ⑬ 内容と位置付けるとともに、国家事業として
⑭ の ⑮ を行った。その結果、嵯峨天皇・空海・橘逸勢らの能筆
家が ⑯ と称せられるようになるなど、天皇家や律令国家は ④
の日本への ⑰ を ⑱ 。



4 120字に要約する。

今回、問題を解くことで学んだこと